



本資料は、2021年9月5日にドイツ本社から発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

Mercedes-Benz

Press Information

2023年10月25日

## Stronger than time: e モビリティ時代に対応する メルセデス・ベンツ G クラス

伝説の全地形対応型モデル G クラスの電動化に向けてエキサイティングなコンセプト EQG を発表

実用性に優れた象徴的オフローダー G クラスの電動モデルの開発を量産間近なレベルまで高めたコンセプトカー、メルセデス・ベンツコンセプト EQG。エクステリアデザインは、G クラス独自の人目を惹く外観に、メルセデスの純電動モデルならではのデザインを厳選して組み合わせることで、鮮やかなコントラストを演出しています。これまで常に最高の標準を打ち立ててきた「G」ならではの 4WD の特性は、電動モビリティの時代に引き継がれるだけでなく、いくつかの面ではいっそう進化を遂げることとなります。このためコンセプト EQG は、メルセデス・ベンツ G クラスのバッテリー電気自動車モデルがお届けする優れた能力を先取りしてご紹介するものとなっています。

2018年1月に米国デトロイトで行われたメルセデス・ベンツ G クラス現行世代モデルの世界プレミアにおいて、ゲストにお招きしたハリウッドのスーパースターで熱狂的な G クラスファンでもあるアーノルド・シュワルツェネッガー氏が、ダイムラー社取締役会会長〔当時〕ディーター・ツェツェからある約束を取り付けました。当時多くの人の意表を突いたその約束とは、全モデルシリーズを将来電動化することに当たっては当然 G クラスもその対象とする、というものでした。それからわずか3年半も経たずして〔2021年9月〕、メルセデス・ベンツはその約束を果たし、G クラス電動モデルの開発を量産間近なレベルまで高めたコンセプトカー、コンセプト EQG を発表することとなりました。

大成功を収めてきた G クラスの初代モデルが登場したのは 1979 年のこと。以来 40 年以上の長きにわたり、「G」はメルセデス・ベンツのラグジュアリーオフロードモデルとして生産され続けてきました。この間、メルセデス・ベンツの伝説的オフロード車として、その外観はわずかしか変わっていません。初代以来、技術面で最大の飛躍を遂げた 2018 年の広範な製品改良においても、人目を惹くその独特なデザインの変更については慎重の上にも慎重を期しました。それには十分な理由があります。かつての純粋に機能的なコンポーネントが長年の間に独自のスタイルを表す象徴的な要素となったからです。そうしたものの例としては、

独特なドアハンドルやドアを閉めたときの特徴ある音、エクステリアの堅牢なプロテクションモール、リアエンドドア外側に取り付けられたスペアタイヤ、フロントの目を惹くウインカーなどが挙げられます。

Gクラスのデザインの伝統を着実に踏まえ、ひと目でGクラスと分かる量産間近な仕上がりのコンセプト EQG。数々の独特なデザインを含めてGクラスの角張ったシルエットを踏襲しています。エクステリアの堅牢なプロテクションモールは、照明付きのストリップにより、非常に目立つデザインとなっています。ツートーンの良いボディカラー(上=グロスブラック、下=グロスアルミニウムビーム)の色の境目は、フロントエンドでは上に重ねたような形状のボンネットのすぐ下を通しており、この特徴的なデザインをより明確に強調しています。

コンセプト EQG のフロントビューは特徴的な円形ヘッドライトが効果を発揮して、おなじみの外観となっています。コンセプト EQG は、内燃エンジンモデルのフロントグリルに代えて、ディープレックのフロントパネルが採用されています。このブラックパネルには、立体効果をもたらす、光るスリーポイントスターが鮮やかなアクセントを与えており、その周囲にはメルセデスの電気自動車でおなじみのブルーによる「丸味を帯びた正方形」のアニメーションパターンを配して視覚的なつながりを生み出しています。ブラックパネルは周囲に照明付きの縁取りが施されており、これがドアミラーハウジングの白く光るサークルともあいまって、ヘッドライトのデイトタイムランニングライトのデザインを補う形となっています。

ホイールは、専用デザインの 22 インチ ポリッシュ仕上げアルミホイールを採用しています。リアエンドドアには、通常のスペアタイヤカバーに代えて、白く光るアクセントを施したロック付のボックスが取り付けられています。充電用のウォールユニットを想わせるこのボックスは、充電ケーブルを簡単に取り出せる場所に収納したりする等便利に利用できます。メルセデス・ベンツグループ社 チーフデザインオフィサーのゴードン・ワグナーは、次のように述べています。「メルセデスはこの新しい EQG とともに未来に向けて旅立とうとしています！ このクルマは最先端のオフロード性能と、私たちが一丸となって目指している電動モビリティの時代の姿を具体的に融合させたもので、最高の要求水準とラグジュアリーを実現しようとするメルセデスの飽くなき追求の中から生み出されました。弊社にとって最も大切なことは、GクラスのDNAを完全な形で保存しつつ、それを電動モデルの時代に注入することでした。こうしてGクラスらしい、それでいて一味違うクルマが誕生しました。ホワイト LED やリアエンドドアのウォールユニットのようなボックスなど、現代的なアクセントとなるデザインは、その違いが際立つ部分です」。

エクステリアデザインでもう 1 つ目を惹くのが、ハイグロスブラックのフラットなルーフラックです。ミニマリズムデザインを採用しており、その中心的要素として中央部分が、クルマの上方から見てGクラスと分かる「G」の文字を形作っています。ルーフラック前端に組み込まれたホワイトの LED ストリップは、過酷なオフロード走行に欠かせないサーチライトを現代的にアレンジしたもので、コンセプト EQG のこの面での本気度を強調しています。つまり、純電動にもかかわらず、ではなく、電動だからこそその本格派なのです。なお、このルーフラックは後端にもレッドの LED ストリップが設けられています。

## 妥協を排したオフローダー—電気駆動だからこそ

コンセプト EQG が明らかに「G」なのは、デザインだけでなく、中身についても言えることで、それによって妥協を排したオフローダーとなっています。ボディは今回も堅牢なラダーフレームを持つ構造を採用したほか、サスペンションも G クラスらしく、並外れたオフロード走破性を発揮できるよう設計されており、フロントに独立懸架サスペンション、リアには電気駆動システムを組み込むため新たに開発したリジッドアクスルを搭載しています。4 つの電気モーターはそれぞれがホイールにきわめて近い位置にあって、個別に制御可能となっており、これによってコンセプト EQG はオンロードでもオフロードでも唯一無二のドライビング特性を発揮します。コンセプト EQG のオフロード用低速ギアは、あらゆる本格派の 4WD 車の場合と同様、切り替え式の 2 段変速機によって選択可能で、「G」だけに求められる高いオフロード性能を確実に実現します。

G クラス純電動モデルは以上のような優れた装備を搭載しますが、量産モデルとして完成に至る開発の最終段階においては、当然ながらオーストリア・グラーツにある標高 1,445m のシェークル山に設けられた名高いテストコースに臨むこととなります。最大で 60 度にもなる勾配を各所に配したコースは、全長 5.6km。国際的なオフロードシーンにおいて、いつの時代も人間とテクノロジーにとって世界最難関の 1 つに数えられてきたコースです。ここでのテストに見事合格すると、電動「G」も 463 シリーズの必須要件となっている「Schöckl proved」(シェークルにて検証済)の品質認定バッジを取り付けることができます。なお、登坂能力は、兄弟分の内燃エンジンモデルと同じく最大 100%(適合する路面の場合)と、見事な性能を備えることとなります。

電気駆動システムは設計上のメリットも有利に働き、オフロード車にも、そして困難なオフロード走行にも適した理想的な駆動方式となっています。また、バッテリーはラダーフレームに組み込まれているため、車両の低重心を実現しています。コンセプト EQG や、後日製品化される量産モデルのような純電動オフローダーは、電気モーターが事実上最初の 1 回転目から最大トルクを発生するため、並外れた駆動力とコントロール性を備えており、急斜面や山深い道でも同様に威力を発揮します。